

広告 企画・制作=日本農業新聞 広告部

# 雪に備えましょう

早めの準備で安心を



厳しい残暑が過ぎ、秋の実感がやっと訪れました。けれども、あと少しすればもう雪の季節。今年はラニーニャ現象のために、冬の大雪が心配です。雪対策はしっかりできていますか？ 気象予報士の叶木律子さんによる気象解説を参考に、除雪資材の用意をして、今年の雪に備えましょう。

叶木律子 日本気象協会予報事業部メディア事業課課長、気象予報士、技術士(応用理学)

## 温暖化がまねく天候異常

昨年度の冬の特徴は、大きな寒暖差でした。春になってもその傾向は変わらず、4月17日には関東甲信地方から東北地方南部にかけて雪が降りました。この時期の降雪は、東京などの地点においては、1969年に並ぶ遅い雪の記録になりました。極端な天候

は、地球温暖化に見られる特徴の1つと言われています。

## 冷たい空気運ぶ偏西風

この極端な天候の原因には、偏西風の通り道の変化が挙げられます。偏西風は上空にて地球を一周している西風の帯のようなものです。この風が何かの影響で南北に大きく蛇行することがあり

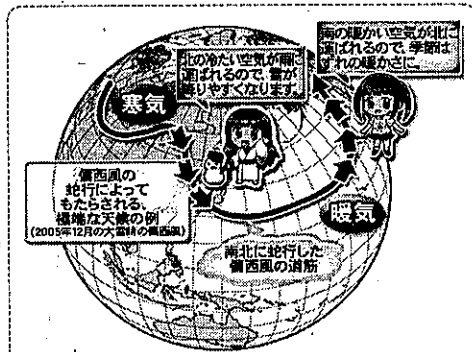
ます。偏西風が北から南に向かう所では、北の冷たい空気が南に運ばれます。反対に南から北に向かう所では、南の暖かい空気が北に運ばれます。そのため偏西風の通り道にあたる地域では極端な天候になりやすいのです。

## 大雪降らすラニーニャ現象

さて、今年の冬はどんな天候に

なるのでしょうか？ この冬の天候を占うカギは、今夏に発生したラニーニャ現象です。これは、ペルー沖の海面水温が異常に低くなる現象で、地球全体の天候に大きな影響を与えます。ラニーニャ現象は冬まで続くと考えられ、その場合、日本の冬は冬型の気圧配置が強まり、東日本や西日本では気温が低くなる傾向がありま

## 雪に備えましょう



平成18年豪雪時の偏西風の様子

水温が平年より非常に高くなっていますから、初冬に強い寒気が南下した場合、日本海側では大雪になるかもしれません。

ところで、平成18年豪雪の時、「雪による死者の7割が、高齢者を中心とする雪おろし中の事故」とい

ます。新潟県津南町を有名にした「平成18年豪雪」は、ラニーニャ現象発生時の出来事でした。

今年は猛暑と暖秋の影響で日本付近、特に北日本付近の海面

うニュースが話題になりました。最近では小型で扱いやすい除雪機もたくさんありますので、どうぞ準備はお早めにし、安全な除雪作業をお願いします。

## 三陽機器

つらい手作業にお困りの方、今年こそトラクタで楽に除雪作業しませんか。

お手持ちのトラクタに三陽機器のドッキングローダを装着すると、トラクタに乗ったまま楽に除雪作業ができます。そうは言っても「操作が難しそう」、「除雪にしかローダを使わないのはもったいない」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし全ての操

作が1本のレバーで行え、初めて使う方や女性でも操作は簡単。また除雪の他に運搬・積み込み・整地・堆肥の切り返しなど、一年を通して多用途にお使いいただけます。特に小型トラクタ専用のミニローダは、安価で狭い場所でも小回りが利くと好評です。

軟弱地での除雪には乗用ローダ「せつじん28ごう」がおすすめです。クローラ式でコンパクトなので、小回りが利き狭い場所でも作業できます。駆動はHST無段変速方式、前後進はフットペダル操作、ローダ操作と左右旋回操作はともに1本レバー方式で、

「作業しやすい」、「使いやすい」、「低重心で安定している」との声が寄せられています。お客様の圃場で作業性を確認していただける好評の実演試乗は、随時承っております。

是非ホームページでご愛用者のメッセージをご覧ください。